



經典餘師
詩經
八

□ 11
2047
31



口 11
2047
卷 31

詩經卷之八

頌四

頌の詩ハ宗廟の樂乃歌なり功を成
りし徳を擧げて神明を告めたり
頌の字ハ形容なりと注して
御徳の形容なり

○周頌清廟之什四之一

清廟ハ清明
なる徳なりと

の義なり又王の廟所なり廟ハ祖宗と
祭靈所なり墓所なり上ハ頌四と
なるハ第一と國風第二と小雅第三と大
雅第四との頌なり此ハ一とあるなり其の義

清廟一章

上ハ詳なり

於穆清廟。肅雝顯相。濟濟多士。秉文
之德。對越在天。駿奔走在廟。不顯不

頌四

周頌清廟之什
四之一

清廟一章

於穆清廟
肅雝顯相
濟濟多士
秉文之

經典餘師

詩經卷之八

徳と秉天と在
對越と駿奔
徒して廟と在
顯るや承
不や人よ射
無射

維天之命一章

維天之命於穆
不於乎
顯れ不や文王
之徳之純
假と以て我と

承無射於人斯

於の數美と清廟のす
高大深遠の容貞肅敬雖和たるふせん濟々の
人としてその容貞肅敬雖和たるふせん濟々の
多士も文王の徳と秉守いづれも祀敬と
廟堂の中と奔走するや文王の神靈
天と在し廟と對しあふの義なり誠
は文王の徳の天地と顯るや承
不や永く誰一人射るや

維天之命一章

維天之命於穆不巳於乎不顯文王
之徳之純假以溢我我其收之駿惠
我文王曾孫篤之

溢我其之
と收駿我文
王の惠が曾
孫之と篤と

維清一章

維清緝熙
文王之典
肇て禮と用
近で成と有維
周之禎

維清一章

維清緝熙文王之典肇禮近用有成
維周之禎

維周之禎

周代々清徳を緝續て徳光熙
典となり功徳なり肇て神明と仰と禮
とを今よその法よと用よ
近てその徳を成と承て維周之
禎祥を受とり

烈文一章

天子宗廟を祭つて後よ
の助佐の諸侯方一酒宴

烈文一章

烈文一章

とほり樂歌

烈文辟公錫茲祉福惠我無疆子孫
保之無封靡于爾邦維王其崇之念
茲我功繼序其皇之無競維人四方
其訓之不顯維德百辟其刑之於乎
前王不忘

烈文辟公錫茲祉福惠我無疆子孫
保之無封靡于爾邦維王其崇之念
茲我功繼序其皇之無競維人四方
其訓之不顯維德百辟其刑之於乎
前王不忘

乎前王忘不

序しめて皇の榮しめ又維は賢人とらげ
らちゆれがその國競と無ごんや能れさま
りて四方の人々皆化して訓とらふ
維は徳大らんは顯不してやいごらんや凡
百の辟公も之を刑とらん誠は前の明
君も之を文王等の徳に永々忘るるため
と

天作一章

天作一章

周の先祖大王より以下と
祭りの詩なり

天高山と作大

天作高山大王荒之彼作矣文王康

王之と荒彼作

之彼徂矣岐有夷之行子孫保之

康と彼徂

代之初て起や天高山と岐山なり周王の先祖大王

行有子孫之と

の土地へ業をこころ荒めんとす又

保と

詩經卷之八

彼よ作めん文王よつくるまごていつく万民康い
 こまり大王彼よ祖めんとのら文王まご
 よ岐山の下の行道夷然のけて國富民壯
 よなり子々孫々まで保治めんよとら
 一謔よ彼よ大王とらとら
 又民とらとらとらとら

昊天有成命一章

周の第三代成王と祭の詩なり

昊天有成命二后受之成王不敢康

夙夜基命宥密於緝熙單厥心肆其

靖之

昊天より命のて周よ天下の君と成しめんつらつら依て文王武王の二乃

右れと受めん成王よつらつて先祖よ天の命とら及で宥密よ重ん天の命とら及で宥密よ重ん天の命とら

昊天有成命一章
 昊天有成命有二后之と受成王敢て康せ不や夙夜命と基て宥密於緝熙單肆よ其之を靖ど

とちかと單しめんゆよ肆よなかく世と靖めんよとら

我將一章

文王と上帝の御徳よちと祭めんよとら乃歌なり

我將我享維羊維牛維天其右之儀

式刑文王之典日靖四方伊嘏文王

既右享之我其夙夜畏天之威于時

保之

文王と祭よ牛羊の掛儀と將享とら上帝文王の神席へ右よつらと後世

善文王の典と刑と伊文王の徳と嘏よつらと日よ大平らる伊文王の徳と嘏よつらと既よ祭て右席よ享めん子孫よの徳とまもり夙夜天の威命よらつらとの畏たり

我將我享維羊維牛維天其右之儀式刑文王之典日靖四方伊嘏文王既右之我其夙夜享之我其夙夜天之威と畏時于之と保ど

時邁一章

時邁其邦昊天其子之實右序有周
薄言震之莫不震疊懷柔百神及河
喬嶽王維后明昭有周式序在位
載戢于戈載櫜囊弓矢我懿德懿求

時邁一章

天子十二年每下巡守諸侯會

歌

時邁其邦昊天其子之實右序有周
薄言震之莫不震疊懷柔百神及河
喬嶽王維后明昭有周式序在位
載戢于戈載櫜囊弓矢我求懿德肆于
時夏允王保之

時夏于肆允王
王之保

執競一章
競武王競
無維烈顯

上帝是皇
彼成康自奄
四方有

執競一章

武王成王康王之三王

執競武王無競維烈不顯成康上帝
是皇自彼成康奄有四方斤斤其明
鐘鼓嗶嗶磬筦將將降福穰穰降福

鐘鼓嗶々々々
磬筦將々々々
福を降
穰々々々福を
降簡々々
威儀及々々
既々々醉既々
飽て福祿來反

思文一章
文らるる稷と
思て克彼天よ
配我烝民と

簡簡威儀及反既醉既飽福祿來反

武王の武徳の競と執すもれり君をうづめよ天
下の民と安んず治めよその競は誰も烈とら
武王の法を繼ぐべきその徳顯とぞんや
上帝めぐみめいてその徳と皇ふたりやゆへ
康王ふりてりての奄よ四方の國々を有てり
明々天下を行々め祭の音樂鐘鼓る
音も嗶々磬筦の聲將々々神明感應あり
て福祿を降りてめよ簡々簡々々々祭よ
わづらるる威儀と及々福酒よちいて飽や
福祿來反ぬる

思文一章

南の郊の御先祖右稷を天
と崇祭とらん其の樂のこころ

思文后稷克配彼天立我烝民莫匪

爾極貽我來牟帝命率育無此疆爾

界陳常于時夏

后稷の周の先祖より
五穀を種るの祖なり

我烝衆の民と世よ立生しめあよ爾の徳
の極やがや又我民よ來牟よめあや食物を貽
めよあよ帝より萬國を率育んよ命め
たりまねが此の疆をれり爾の界を
隔てをなみす五常忠孝の道をよ
中夏のころる教陳をん

周頌臣工之什四之二

臣工一章

諸侯方々りて祭を助
佐めい祭畢て各々その國

聯よ及で天子の廟へ拜し告歸して之ら
くよの時の樂歌なり天子戒め告め

立爾の極
匪莫我來
と牟と貽
帝の率育命
の界と無常と
時夏于陳
周頌臣工之什
四之二
臣工一章

聰敬るる不止
日就月將
學で緝熙めて
于光明有時仔
肩を佛て我に
顯德行と示せ

小忠一章
予其德而後
患と必む予蜂
と并自辛蟄

小子不聰敬止。日就月將。學有緝熙。
照覽

于光明佛時仔肩示我顯德行。
照覽

小忠一章

予其德而後患莫予并蜂自求辛

閔予小子一章

閔予小子。遭家不造。嬛嬛在疚。於乎皇考。永世克孝。念茲皇祖。陟降庭止。維予小子。夙夜敬止。於乎皇王。繼序思不忘。

閔予小子一章
閔る予小子
家の不造を遭
嬛々として疚
考永世克孝茲
皇祖を念て庭
陟降を止維
予小子夙夜敬
止於乎皇王
繼序して忘不
と思

訪落一章

予落と訪て止

時昭考と率之

於乎悠らる哉

朕未艾らる

有と將と予之

就とす繼猶

判渙維予小子

未家の多難

堪庭上下

陟降

殿家と紹休と

依て先祖の神明も庶庭まうく来て陟降
あひく目と見るぞくくはるるくくく維
予小子あひくも天子位はるるくくく
於乎皇王文
王の徳をわたり常の代と継序して保べ
くらふととと二帝の遺法と賤らるるくく
畏思て忘不

訪落一章

先祖の廟所として羣の臣下と相謀らるるその樂歌なり

訪予落止率時昭考於乎悠哉朕未

有艾將予就之繼猶判渙維予小子

未堪家多難紹庭上下陟降殿家休

矣皇考以保明其身天下の事本と務始と戒り慎むなり

有客一章

客有客有亦白

其馬萋

有且

敦琢其旅客有

宿々客有信

信言言之

執と授て以て

其馬と繫ん薄

く言之と追左

右之と綏

既と淫威有福

いと降と孔と

夷

有客一章

宋の公微子にうけて周の廟に見る時の樂なり宋の

殿の後うけて周の客乃礼と以て待饗あり

有客有客亦白其馬有萋有苴敦琢

其旅有客宿宿有客信信言授之繫

以執其馬薄言追之左右綏之既有

淫威降福孔夷客待の公有て

威儀容自萋且ぬ
扈從きつる殷家の旅衆のくくく敦研
お智なりうく乃徳つる伯々信々のす
いわれく願く執系繩を以てその馬を止
と綏と居ありとと追て薄く止て左右
既と徳淫るる威徳

武一章

於皇武王

競無惟烈允

文文王

克厥後

武之受殷

勝劉之遏爾

功者皆定

周頌閔予小子之什四之三

孔夷易して難る事なり

武一章

武王大功の徳と述べて樂と

於皇武王無競維烈允文文王克開

厥後嗣武受之勝殷遏劉者皆定爾功

於皇武王の武威なり其の徳の烈なり

の後嗣繁昌の端を開き武王之を受

て殷は勝めし實に人を劉しを遏むる

子細に万民の心よき徳を以て天下の王

周頌閔予小子之什四之三

既右烈考亦右文母

天子の祭に辟公方

は諸侯の來る至時の容姿肅々

天子の威烈の如くと穆々

天子の徳假哉とて孝子の予と

天子の孝行と主

天子の祭に辟公方

天子の威烈の如く

天子の徳假哉と

天子の孝子の予と

載見一章

辟公方

載見辟王曰求厥章龍旂陽陽和鈴

載見一章

載見辟王曰求厥章

龍旂陽陽和鈴

龍旂陽陽

和鈴

載見辟王曰求厥章

載見辟王曰求厥章

龍旂陽陽

和鈴

て享以て祀以て景福と介よ

誰一章

來と有て誰々
り至て正肅
肅より相維辟
公天子穆々と
り於廣社と薦
予と相て祀と
肆假ちる哉皇
考予孝子と綏
宣哲維人文
武維后燕皇天

鯉鯉以享以祀以介景福

荷與と嘆美の聲なり川の二乃川の鯉鯉
潛とてつけ祭の魚を祭れとてり
鯉鯉の魚なりとてり
神の景なる福を永くけめんとてり

誰一章

文王と祭りて庶羞と
徹とれたの樂歌なり

有來誰誰至止肅肅相維辟公天子

穆穆於薦廣社相予肆祀假哉皇考

綏予孝子宣哲維人文武維后燕及

皇天克昌厥後綏我眉壽介以繁祉

く譽を永く未終
なり

豐年一章

秋の作ものみのり熟して
後田祖方社を祭るの

豐年多黍多稌亦有高廩萬億及秭

為酒為醴烝畀祖妣以洽百禮降福

孔皆

天道陰陽和合して年豐
稌多れをいふと高と廩をを
け内よ入その數万億よつと
よつととてり依て酒よけり
祭りて先祖妣を祭りて神明の福幸を降め
孔よ皆と

豐年一章

豐年黍多稌
多亦高廩有萬
億及秭酒を為
醴を為祖妣
烝畀して以て
百禮を洽福
を降と孔と
比日

或實函て斯活
或來て女を
瞻載ら筐及筥
其饒伊黍其笠
伊糾て其縛
斯趙以て茶蓼
と藪茶蓼朽止
黍稷茂るり止
之と穫と挿々
之と積と
栗々て其崇
墉の如く其比
櫛の如く以て
百室と開百室
盈止婦子寧止
時特牡と殺採

斯活。或來。瞻女。載筐。及筥。其饒。伊黍。其笠。伊糾。以藪。茶蓼。其朽。止。黍稷。茂。止。之。獲。之。挿。之。積。之。栗。栗。之。崇。墉。之。比。櫛。之。比。以。開。百。室。百。室。盈。止。婦。子。寧。止。殺。時。特。牡。有。採。其。角。以。似。以。續。續。古。之。人。
能實と函て生活する妻女來と瞻の饒の黍をい
 け筐筥と載て人々笠を糾く載て縛と趙
 りて茶蓼と藪の草朽て黍稷茂
 りて豊年なりて既と穫挿々て栗々
 りて積の崇と墉の比と櫛の齒の比
 の室と開て内と盈々て農民安堵をなす婦

て似以て續て
古之人の續

子寧樂なり牛と殺て祭と各々古より先
 祖の例と承續となり特牡とんかどうなり
 採の解するなり

絲衣一章

絲衣一章

祭の明又祭の事なり尸
 と定めて酒宴とと釋祭とい

絲衣其紵
弁と載と休俵
自堂自基
徂羊自牛
徂鼎及鼐
兪觥其觶
旨酒不
不敖
胡考之休

絲衣其紵載弁俵俵自堂徂基自羊
 徂牛鼎鼎及鼐兪觥其觶旨酒思柔
 不吳不傲胡考之休
とるんての詞ゆへ土の服といひ土の常乃
 服なり祭乃服の紵なり衣を著し
 依たりて載て祭の奠の備や否とらり
 基室へりて祭の奠の備や否とらり

牛羊豕等の牲肉を見て門外の鼎鼐煮らるるに
兕觥の觶たるは旨酒の肴けれをばくして
人々得て不呉不教まことん長久胡考の依
嘉と得てなかりしとや

酌一章

酌一章

武王と祭る樂の歌なり武王
能先代聖人の道を酌とり

於鑠王師導養時晦時
純熙矣是用我
龍之受
躋々王
之造載
用有
實維爾
公允師
之

於鑠王師導養時晦時純熙矣是用
大介我龍受之躋躋王之造載用有
嗣實維爾公允師
今その事を嗣用ゆりの實は
爾の公を師と鏡とすなり

桓一章

桓一章

武王を頌の詞と桓々
武威とげき貞なり

萬邦を綏して
屢豊年天命解
匪桓々武
王厥土を保有
于四方を
以て克厥家と
定於天子昭々
たり皇と
以て之の間
賚一章
文王既勤止
我之應受
時繹思敷我

綏萬邦屢豊年天命匪解桓桓武王
保有厥土于以四方克定厥家於昭
于天皇以間之
今その事を嗣用ゆりの實は
爾の公を師と鏡とすなり

賚一章

武王天下を定め功あり臣下へ
賚するの詞なり

文王既勤止我應受之敷時繹思我

但維求定時周之命於
求時周之命於
繹思と

但維求定時周之命於繹思
文王常と聖
德とヤウ
勤めん天の命を應じて受めり我臣下の
者その徳を繹思ひ人の心を率てれ但て
天下の定まりを求め誠と周の天命を受め
所以と繹思ひ各々職を務むるなり

般一章

天下定まりて周の世とく
般の意なり

於皇時周陟其高山
山喬嶽允猶
於乎周の御世の盛なり天下太平と
天子諸侯の國々巡守するのみ天下の名山大
川を祭るの鎮守を安置し人の扱ふの陟至め
所の墮山喬嶽のゆるび又大河を翕至め
祭め敷く天下の山川を哀て皆これ對
祭め誠と周の天命を應じ諸侯伯服

命
於皇時周
其高山陟
山喬嶽允猶
て河を翕と敷
天之下時哀
之對時周之
命

於乎周の御世の盛なり天下太平と
天子諸侯の國々巡守するのみ天下の名山大
川を祭るの鎮守を安置し人の扱ふの陟至め
所の墮山喬嶽のゆるび又大河を翕至め
祭め敷く天下の山川を哀て皆これ對
祭め誠と周の天命を應じ諸侯伯服

乃民般を得

魯頌四之四

魯頌四之四

魯の國の書經より蒙羽の
野とて是なり周公の長
子伯翳を封ぜ

駉四章

駉四章

魯の國の牧馬の盛と蕃息
魯の君は志氣を立ちしもの

駉々々々
野之野在薄
者驕有皇有驪
有黃有車以
有黃有車以
有黃有車以

駉駉牡馬在坵之野
薄言駉者有驕
有皇有驪有黃以車
彭彭思無疆思

馬斯臧

牡の男馬なり種々の馬の坵野に在る
見て魯の君乃遠く思慮疆々非常の備つる
馬及て牧に在る馬は臧なり驕なり

疆無馬の斯臧
を思

小魚大無公公之
從從于于邁邁

思思洋洋水水之之樂樂

人人之之薄薄其其藻藻

采采魯魯侯侯戾戾

其其馬馬躑躑々々

其其馬馬躑躑々々

其其奇奇昭昭々々

載載色色載載笑笑

怒怒匪匪伊伊教教

思思洋洋水水之之樂樂

人人之之薄薄其其菲菲

采采魯魯侯侯戾戾

洋洋水水之之樂樂

既既飲飲旨旨酒酒

飲飲永永老老難難錫錫

彼彼長長道道順順

穆穆々々魯魯侯侯

其其德德敬敬明明

威威儀儀敬敬慎慎

維維民民之之則則允允

文文允允武武昭昭

昭昭假假不不孝孝

有有靡靡自自伊伊

求求伊伊祐祐

明明々々魯魯侯侯

克克其其德德明明

既既洋洋宮宮

從從公公于于邁邁

洋宮の池水宮と半めづりて水あり
芥と采とりて句よ子細る一尺水

よ就ての芥つるを見たり 學宮よ就て魯侯の戾の
威儀さるるを見たり 蓋との礼さるる

魯公の戾めんと觀べ其旂竿々々の車の鸞の聲
徹々て大人小人遺漏々々皆

思樂洋水薄

采其藻魯侯戾止其馬躑躑其馬躑

躑其音昭昭載色載笑匪怒伊教

思樂

洋水薄采其菲魯侯戾止在洋飲酒

既飲旨酒永錫難老順彼長道屈此

羣醜

穆穆魯侯敬明其德敬慎威儀維民

之則允文允武昭假不孝

自求伊祐

明明魯侯克

明其德既作洋宮淮夷攸服矯矯虎

文

詩經卷之八

經典餘師

作淮夷の服す
倭矯々たる虎臣
洋よ在て醜を
獻す淑問と臯
陶の如し洋よ在
て囚を獻じ

濟々たる多士克
徳心と廣む桓々
とて于て征彼
東南と狄と
悉々皇々として
吳々不揚々
不訟于告不洋
よ在て功を獻
す

角弓其觶
東矢其搜
戎車孔博
御載と無既
淮夷と克
と淑逆不式
爾の猶とを固
淮夷卒と獲と
翩々彼飛鴉
洋林于集る我
桑黠を食し我
懐て好音と
憬々彼淮夷
來て其琛を獻
ど元龜象齒大

臣在洋獻醜淑問如臯陶在洋獻囚

魯云すでよ洋宮と修設の徳明々々して淮夷の國々まで服しとて武臣の矯々虎の如く敵を討つて醜を獻じ文官の智明々々して臯陶の如く淑問と問無實の罪をくつてりよ殺さばして囚人を獻ずると

濟多士克廣徳心桓桓于征狄彼東

南悉々皇皇不吳不揚不告于訟在

洋獻功

夷を平治の時いその勇氣桓々として皇々たるを最重と軍と持て不吳不揚法今を守りて隊伍を乱さぬ又相互訟とす

角弓其觶東矢其搜戎車孔博徒御

無載既克淮夷孔淑逆不式固爾猶

淮夷卒獲

翩々彼飛鴉集于洋林食我桑

黠懐我好音憬彼淮夷來獻其琛元

龜象齒大賂南金

林の飛翽して桑の黠を食しとて好美と音を發すこれ徳を化して我の懐をいり淮夷のものも

泰山巖々魯邦の詹所奄
龜蒙と有遂
大東と荒海
邦于至淮夷來
同率從せ不
功莫の魯侯之

鳥繹と保有
遂徐宅と荒
海邦于至淮夷
蠻貊及彼南夷
率從せ不莫

敢て諾せ不
莫魯侯よ是若

天の純嘏を
錫眉壽やて魯
と保一常と許
與居周公之
宇復と魯侯
燕喜と今妻壽
母大夫庶士宜
邦國是有て
既多祉と受
黄髮兒齒

但來之松新甫
之栢是斷是度

是を以て我狄と膺荆舒の國と懲り征
中々我をふせぎ承といはるすまきとてなり永
千歳の眉壽大昌熾やして害らるる事とて黄髮
の老人なり艾の五十者ハ六十台背の年老て皮よか
賢徳と胥與よ試らるるの心なり ○泰山巖

巖魯邦所詹奄有龜蒙遂荒大東至
于海邦淮夷來同莫不率從魯侯之

功 泰山巖々魯國の鎮守とて人皆魯侯と化
泰山の二ツハ詹とて山の如くなり ○龜山

保有鳥繹遂荒徐宅
侯の徳の功なり ○保有鳥繹遂荒徐宅

至于海邦淮夷蠻貊及彼南夷莫不

率從莫敢不諾魯侯是若 鳥繹山の二ツ
も南徐宅の

土地とあり 蠻貊までも魯侯よ若とのなり ○

天錫公純嘏眉壽保魯居常與許復

周公之宇魯侯燕喜今妻壽母宜大

夫庶士邦國是有既多受祉黄髮兒

齒 天の魯の純嘏を得て眉壽く魯を
保て常許の土地よりて周公の宇よ復んと

たり魯の母や魯侯の妻今や徳有り
て大夫庶士すて宜くや魯侯の妻今や徳有り
れば兒齒の壽命までもさるるなり ○但

來之松新甫之栢是斷是度是尋是

是尋是尺松栢
鳥路寢孔碩
新廟奕奕
奕奕斯之
作孔曼且
碩萬民是若

商頌之什四之五

那一章
猗與那與我
執鼓置鼓奏
簡簡行我

我烈祖之行
湯孫奏假
我思成綏
執鼓淵淵
嘒嘒管聲
既和且平
依我磬聲
於赫
厥聲庸鼓
鞀萬舞奕
奕有嘉
客有亦夷
懌自古
自在
昔先民
作朝
温恭
朝夕
執事
恪

尺松栢有鳥路寢孔碩新廟奕奕奕
斯所作孔曼且碩萬民是若
柢の大樹木多し是と斷度て宗廟と造作
わめいなりりるいん尋又い尺をりりめ
楸と用ふるは奕々なり新廟と前より
孔碩なる路寢を建め是大夫奚斯が造作
と司享なり民の望り
とてごんく誠と曼碩とことごとく

商頌之什四之五

宋の殷の後の
依て商の樂歌を

那一章

湯王を祭め
時の樂なり

猗與那與置我執鼓奏鼓簡簡行我

烈祖湯孫奏假綏我思成執鼓淵淵
嘒嘒管聲既和且平依我磬聲於赫
湯孫穆穆厥聲庸鼓有鞀萬舞有奕
我有嘉客亦不夷懌自古在昔先民
有作温恭朝夕執事有恪顧予烝嘗
湯孫之將
の詩の心は猗與那なりとて禮樂
の奴なりと我誠のつらとを以て
我思ふ所の神明心と綏と格とを
靴の小つてなり簡々の聲の和ぐなり淵々嘒々
とん聲とんとんなり管のふたなり赫とん
なり湯の徳子孫を光りなり穆々のち
とんとん痛の大なり金なり鞀なり舞の
とんとん嘉客とん湯の子孫とんて祭を助て夷

有予烝嘗之顧
之湯孫之將

烈祖一章

嗟々烈祖秩の
斯祐い有申て
無疆と錫爾の
斯所よ及既よ
清酏と載我よ
思成と資亦和
美有既よ戒め
既よ平く駿假
言無時よ争い
有と靡我眉壽
と綏と黄耆疆
無約軼錯衡ハ

憚と朝夕禮儀温恭く恪として事を執とうのよ
今予湯孫の烝嘗の祭と將めんと顧
めくと祀樂のよのよをり

烈祖一章

上と同じき

嗟々烈祖有秩斯祐申錫無疆及爾
斯所既載清酏資我思成亦有和美
既戒既平駿假無言時靡有争綏我
眉壽黃耆無疆約軼錯衡八鸞鶴鶴
以假以享我受命溥將自天降康豐
年穰穰來假來饗降福無疆顧予烝

鸞鶴々々以て
假以て享我受
命溥將自天
自康と降豐年
穰々々來假來
饗福をい降
疆無予烝嘗と
顧と湯孫之將

嘗湯孫之將

先祖上の烈祖秩よ無疆祐福と
申ぬ賜て再の躬よ及よ清

玄鳥一章
天命玄鳥降而生商宅殷土芒芒古
降而商と生ど
殷土芒々々宅
古帝武湯よ
命して彼四方と
正域と方厥后

醜い清き酒なり和美と戒平のよ神明假
禮儀との慎といてらるめと争有と
言よと又祭と助諸侯と
て神明と假いむ依て商の神明の命を受こと
溥してると天より康と降一豊年實のり穰々
るよと述るなり末の章も皆前よ出るなり
すことと述るなり末の章も皆前よ出るなり

玄鳥一章

と祭の樂なり

天命玄鳥降而生商宅殷土芒芒古
帝命武湯正域彼四方方命厥后奄
有九有商之先后受命不殆在武丁

武王武施施之載載虔虔
 有火有烈烈則則我我敢敢
 莫莫九九有有截截
 有有韋韋顧顧既既伐伐
 昔昔在中中葉葉震震且且
 業業有有允允也也天天
 子子卿卿士士于于降降
 實實維維阿阿衡衡實實
 商商王王と左左右右
 是是常常

○武王載施有虔秉鉞
 如火烈烈則莫我敢曷苞有三蘂莫
 遂莫達九有有截韋顧既伐昆吾夏
 桀
 武德の湯王しし施と載軍兵と進て手よ
 如く敢て曷の者しして徳人
 韋顧昆吾らと三の蘂も勢力を芽と達遂とし
 てつる伐はるは九州の
 邦々截然しとなり
 ○昔在中葉有
 震且業允也天子降于卿士實維阿
 衡實左右商王
 伊尹といふ輔佐の阿衡を降し商王を
 守護するは阿衡を卿士の官なり

殷武六章

捷捷彼彼殷殷武武奮奮伐伐荆荆楚楚突突入入其其阻阻哀哀荆荆
 其其阻阻之之旅旅と哀哀其其
 所所と截截ちと有有
 湯湯孫孫之之緒緒

捷彼殷武奮伐荆楚突入其阻哀荆
 之旅有截其所湯孫之緒
 荆楚の国謀殺せと平治めたり
 と奮めい深く險阻の土地へ入て其旅衆と哀截
 てつるよ世を治めへて湯王の
 緒業とくのみなり

殷武六章

維維女女荆荆楚楚國國の
 南南鄉鄉昔昔有有成成湯湯自自彼彼氏氏羗羗莫莫敢敢
 不不來來享享莫莫敢敢不不來來王王曰曰商商是是常常

維維女女荆荆楚楚國國の
 南南鄉鄉昔昔有有成成湯湯自自彼彼氏氏羗羗莫莫敢敢
 不不來來享享莫莫敢敢不不來來王王曰曰商商是是常常
 是是常常

居國南郷昔有成湯自彼氏羗莫敢
 不來享莫敢不來王曰商是常
 又諭告の詞なり女も國の南郷より我
 隨順すべきなり昔湯王の時より氏羗の如く
 遠く夷より来服せざるは是商の御
 代の常とくたり享の貢とさぐるなり又來王

天多辟命設都于禹之績設歲事來辟予禍適稼穡解匪

天命降監下民嚴有僭不濫不敢怠違命于下國封建厥福生保

商邑翼翼四方之極赫赫

厥聲濯濯厥靈壽考且寧以我後生保

彼景山松栢丸丸是斷是遷方斷是度松栢楹閑寢成孔安

○天命多辟設都于禹之績歲事來辟勿予禍適稼穡匪解

○天命降監下民嚴有僭不濫不敢怠違命于下國封建厥福

○商邑翼翼四方之極赫赫

○厥聲濯濯厥靈壽考且寧以我後生保

○彼景山松栢丸丸是斷是遷方斷是度松栢楹閑寢成孔安

高王既天下太平松栢丸丸是斷是遷方斷是度松栢楹閑寢成孔安

夫詩之為德也可以興可以觀可以怨邇之事父遠之事君多識於鳥獸艸木之名云人不可不學而在上之人最為當務

寺經卷之八

之急夫在九重之內而臨巢穴之民悠
 遠相隔如胡越然欲通下情不亦難乎
 知稼穡之艱難知小人之依而後可以
 言治蓋相通人情莫如詩矣此夫子之
 所以列於經也

詩經餘師終

經典餘師 四書之部 全十冊 同 四書序之部 全二冊

同 小學之部 全五冊 同 孝經之部 全二冊

同 詩經之部 全八冊

寬政五癸丑年四月

大坂書林

柏原屋與左衛門
 柏原屋嘉兵衛

